アパレル産業における環境配慮対応策の考察

中出　悠花

【要旨】

衣料品は季節性や流行などの不確かな要因により需要予測が困難であり，過剰在庫や大量廃棄のリスクが大きい。さらに，国内における衣料品の供給量は増加すると同時に，衣服1枚当たりの価格は年々低下しており，アパレル市場の規模が縮小している。過剰生産が常態化して在庫余剰による大量廃棄が拡大している。環境負荷は大きく，各企業や自治体が環境配慮対応策に取り組んでいるが，根本的な解決には至っておらず，適量生産への転換が急務である。アパレル市場における環境配慮対応策に関する研究の中でも適量生産への手法を示す考察はほとんどない。本研究は，適量生産の手法としての視点からビジネスモデルであるD2Cの考察を行った。D2Cの事例比較から，「SNSの活用」「需要予測の精度向上」「サイズの不安解消」「自社コンセプト」「流通構造の連携強化」の共通の成功要因があることが明らかとなった。

【講評】

近時、環境保護対策が求められるようになったアパレル産業における過剰生産や大量廃棄といった問題について、それらが生じる構造を丁寧に明らかにした上で、D2D(Direct-to-Consumer)企業の事例を比較検討し、「適量生産」のための具体的提案を行っている。

アパレル産業における課題に対して、D2Dの視点から取り組んだ点は新規性が高く、その具体的な提案内容はビジネスモデル全体への示唆に富む内容となっており、実務的な価値も認められる。また、研究論文としての形式は申し分ない。

よって、優秀卒業論文にふさわしいと判断した。